

科目名	化学
授業形態	講義・実験
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間 1単位(生活科学の10時間と合わせて計30時間)
授業担当者	長野 守雄

- 学習目標
1. 歯科の基礎としての化学を各個人が身に付け、歯科医療の現場において学んだ知識に活用できるようにする
  2. 放射線(電磁波)の種類と性質を学び、その利用法を理解する
  3. 歯科で用いられる無機化合物及び有機化合物の名称と性質を理解する
  4. 化学反応式、濃度、化学平衡、酸と塩基、電離平衡、pH及び加水分解を理解し、それぞれの内容の計算法ができるようになる
  5. 歯科と関連のある糖質を含む生体関連物質について、構造・名称・性質及び物質間の関係を化学的に理解する

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科と化学	歯や骨の構成成分、むし歯を化学的に説明	歯の脱灰と再石灰化がpHとどのような関係にあるかを理解する
2	物質の構造(1)	周期表、イオン結合と組成式、CaやFの化合物	周期表と単原子イオンの関係、組成式の作り方及びカルシウムを中心とした主な化合物を理解する
3	物質の構造(2)	原子と放射線、同位体、物質質量	電磁波の波長・透過性、放射線の性質・利用法を理解する
4	物質の状態	物質の三態、溶液、濃度、印象材(ゲル)とコロイド溶液(ゾル)	三態変化、溶液における濃度(%濃度、モル濃度)、コロイド溶液の性質について理解する
5	物質の変化(1)	化学反応と化学平衡、酸と塩基(アルカリ)	可逆反応と化学平衡及び酸と塩基の性質を理解する
6	物質の変化(2)	水の電離、pH、酸と塩基の電離平衡	pKaとpKb及びpHの計算ができるようになる
7	物質の変化(3)	加水分解、緩衝溶液、難溶性塩の化学平衡	弱酸・弱塩基の加水分解、緩衝溶液、酵素による加水分解及び溶解度積を理解する
8	無機化学	1族元素から18族元素	歯科で用いられる無機化合物の名称と性質について理解する
9	有機化学	アルコール、アルデヒド、カルボン酸	糖類より生じるアルコールの酸化によりアルデヒド、さらに酸化が進むとカルボン酸ができることを学び、むし歯との関係を理解する
10	生体関連物質の化学	単糖類、二糖類、多糖類	グルコースを中心とした単糖類、二糖類、多糖類を理解する

評価方法 定期試験による学科テスト及びレポート

#### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版株式会社)
- ・高等学校検定教科書「化学」(東京書籍、数研出版、啓林館)

#### 実務経験

科目名	化学(生活科学)
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	10時間(化学の20時間と合わせて計30時間 1単位)
授業担当者	浅海 真弓

- 学習目標
1. 生活を科学的視点で把握する力を身につける
  2. 生活の諸課題の解決に向けて、主体的に行動できるようにする

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	衣生活の科学①	衣服の素材について(繊維の種類と構造、性質)	身近な衣服素材の性質について理解し、着用する季節や場面などに合わせた素材を選択できるようにする
2	衣生活の科学②	衣服の洗濯について(洗剤の種類と汚れ除去のしくみ)	洗剤の種類や特徴、汚れ除去のしくみを理解し、素材に応じて適切な洗濯方法を選ぶことができるようになる
3	食生活の科学	食生活と栄養、食品の安全性について	栄養バランスや食の安全に対する現代の課題を理解し、自らの食生活の改善に向けて実践できる
4	住生活の科学 プラスチックの科学	住環境と健康・快適性との関わりについて プラスチックの種類と性質について	健康で快適に生活するための住環境について理解する 身近なプラスチックの性質と用途について理解する
5	衣食住と環境	循環型社会と衣食住のリサイクルについて	衣食住に関わるリサイクルの現状を理解し、それらの課題を解決するための行動へとつなげる

評価方法 試験

#### 参考図書等

- ・「生活科学(第6版)」山本直成・浦上智子・中根芳一著(オーム社)
- ・「身の回りから見た化学の基礎」芝原寛泰・後藤景子著(化学同人)

#### 実務経験

科目名	生物学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	塔筋 弘章

学習目標 ヒトを含む生物のしくみや生物と環境との関わりを理解する

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生物の基本構造	生物を構成する物質と細胞	生物を構成する物質および細胞の構造について理解する
2	生命活動は化学反応	細胞の活動: 酵素、呼吸、代謝	酵素の働き、生物の代謝を理解する
3	遺伝子からタンパク質	DNAの構造と複製、翻訳	DNAの構造と複製の方法、遺伝子発現を理解する
4	単細胞から多細胞へ	原核生物、真核生物、多細胞生物	原核生物、真核生物、多細胞生物のなりたちについて理解する
5	卵から個体へ	発生と分化: 細胞分裂、分化、生殖	受精卵が体を作っていくしくみについて理解する
6	遺伝のしくみ	メンデルの法則	遺伝のしくみの基礎について理解する
7	突然変異	遺伝子の損傷、修復、変異	DNAの損傷とその修復、突然変異を理解する
8	進化論	ラマルクからダーウィンへ	進化論の基本的な考えを理解する
9	生物の進化	恐竜から鳥へ	恐竜を題材に、生物の系統と進化について理解する
10	人類の進化	生物の系統、ヒトの進化、進化論	猿人からヒトへの進化について理解する
11	水族館見学	かごしま水族館見学	水生生物の種類や生活様式、環境について理解する
12	水族館見学	かごしま水族館見学	水生生物の種類や生活様式、環境について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・必要に応じてプリントを配布する

実務経験

科目名	心理学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	四元 真弓

学習目標 “心”とは何か? 「心をもつ人間」に対して深く理解(洞察)し、歯科衛生士としての感性を育み「心をもつ人間」に対する真の援助のありようを感得する  
「心理学」の講義を通して、人間の心のもつ意味・背景を深く理解し、真の臨床援助のできる歯科衛生士としての自己成長を促す

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	臨床援助とは	臨床援助の概念、開かれた関係のありよう	臨床援助の概念について理解する
2	臨床援助と発達観・教育観・治療観	人間学的心理学に立脚した発達観、教育観、治療観	治療者としての発達観、教育観、治療観を深め、人間観をもつクライアントに向き合う治療者としての姿勢を育む
3	自我の拡散と自己の確立	人間学的心理学に立脚した発達観、教育観、治療観	自我と自己、自我のありようについて理解を深める
4	自我の拡散と自己の確立	自己実現、自己概念、自我の再体制化のありよう	自己概念について理解し、自己へのきづきを深める
5	援助のための心理査定	心理学的検査の数値のもつ意味の理解、援助的配慮の感得	クライアントの大切な一部である査定の結果が表す意味を理解する
6	病める心への援助	精神分析療法、行動療法、人間学的心理療法について	それぞれの心理療法がもつ治療仮説について理解する
7	病める心への援助	カウンセリングにおける支援のあり方	カウンセリングに必要なセラピストの心構えについて感得する
8	病める心への援助	あそびのもつ意味、プレイセラピーについて	あそびのもつ心理的意味について深く理解する
9	病める心への援助	アクスラインの8つの原理について	アクスラインの8つの原理を通してセラピストとしてのうごきを感得する
10	発達障害	発達障害の概念、原因について	発達障害の変遷をみながら、クライアントの特徴を知る
11	発達障害	発達障害の行動の理解、発達援助のあり方について	クライアントの行動の意味、支援のあり方について理解する
12	PTSD	トラウマ、PTSDの症状について	PTSDのクライアントの症状を深く理解する
13	PTSD	PTSDのクライアントへの援助のあり方について	PTSDのみたてをもち、配慮ある適切なかかわりを身につける
14	心の病気	似て非なるもの(心身症、神経症、精神病)について	心の病気をもつクライアントへのみたてときづきを深める
15	高齢者	エイジング、高齢者の自己概念のありようについて	高齢者の抱えるものを理解し、援助のありようを感得する

評価方法 定期試験による学科試験を行う(直筆ノート持込可)

参考図書等

・「臨床心理学―「生きる意味」の確立と心理支援―」久留一郎・餅原尚子著(八千代出版)

実務経験

・本科目は、臨床心理士として実務経験のある教員による授業である

科目名	社会学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	金子 満

学習目標 日本社会が抱える現代的課題の背景を社会学、人間理解の視点から理解する  
 学生にとっては身近な課題となる「青年期の諸問題」「家族」「コミュニケーション」について、日本社会の特質や顕在化する課題を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	講義内容の紹介	講義内容の全体像を紹介し、社会学の講義において扱う諸問題を理解する	現代の日本社会が抱える諸問題を理解し、社会学の視点から、社会現象、社会問題をどのように捉えるかを理解する
2-5	青年期の諸問題	フリーター、ニート、自殺、ひきこもりなどの青年期をめぐる社会現象を捉えつつ、青年のアイデンティティの形成について考える	青年たちによる「やさしい関係」に代表される諸現象がどのようなかたちで社会構造とつながっているのかについて理解しつつ、これらを踏まえ青年のアイデンティティの意味について理解する
6-7	家族	共依存、DV、児童虐待など夫婦の問題、親子関係をめぐる社会現象をとりあげ、そのメカニズムについて考える	夫婦の問題、親子関係の問題がどのような社会的背景から生まれているのかを理解する
8	社会調査	日常にあふれる数値や統計に関する、社会的理解を深める	さまざまなメディアの中で使用される統計やデータを読み解く力をつける
9-10	コミュニケーション	コミュニケーションについて、ソーシャルキャピタルの理論を用いながら、「信頼」をキーワードに現代の社会問題と照らし合わせて考える	コミュニケーションの持つ意義を理解し、かつ「信頼」の崩壊が社会に与える影響について理解しながら、人とかかわる存在としての医療従事者としての自覚を深める

評価方法 講義中の感想及びレポートにより評価する

参考図書等

・講義にて資料を配布する

実務経験

科目名	健康社会学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	長岡 良治

学習目標 健康の概念の変化を理解するとともに、人々の健康を脅かす社会的な生活問題について関心を持ち、21世紀の健康と社会のあり方について考えることができる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、健康社会学とは、健康の今日的課題	健康と社会の理想的なあり方を追求するために人々の健康を脅かす社会的な生活問題について解説する	健康社会学の概要、健康問題の今日的課題について理解する
2	健康観のライフサイクル 青年期の健康学習	ライフステージにおける健康観の変化と青年期における健康観、少子化問題について解説する	健康観のライフサイクルと青年期の健康について理解する 健康の基本は愛することであることについて理解する
3	健康の世界史	中世社会のハンセン病や腺ペストなどがヨーロッパの人達の生き方や文化に与えた影響について解説する	伝染病が宗教改革や人々の生き方、社会文化に与えた影響について理解する
4	産業革命と公害、今時の公害と健康問題	産業革命によりどのような公害が起こったか、今時の公害と健康問題について解説する	科学技術の恩恵と負担、今時の健康被害について理解する
5	健康の日本史(1)	養生思想とWHOの消去法的思考様式および無限性追求について解説する	養生思想とWHOの健康観の違いについて理解する
6	健康の日本史(2)	日本社会の健康化—生活環境、教育環境、労働環境の整備、病院開設の歴史について解説する	21世紀の健康と社会のあり方について理解する
7	ミクロの健康、マクロの健康	産業社会におけるマクロな健康がミクロな健康に及ぼす功罪について解説する	ミクロな健康とマクロな健康のあり方について理解する
8	健康社会のパラドックス	健康を求め続けているのに健康不安に陥るメカニズムについて解説する	健康不安からの脱却法について理解する
9	健康格差社会	教育格差・経済格差・健康格差の相互作用について解説する	健康格差社会を引き起こす理由について理解する
10	ネット社会と健康、日本のヘルスプロモーション	ネット社会による健康問題や健康づくりの為に行われている様々な施策について学習する	健康づくりの様々な施策とヘルスプロモーションについて理解する

評価方法 学習態度・状況、中間レポートおよび定期試験による筆記試験等により評価する

参考図書等

- ・「健康と医療の社会学」山崎喜比古著(東京大学出版会)
- ・「新しい健康問題のとらえ方」篠原菊紀著(大修館書店)
- ・「健康の日本史」北沢一利著(平凡社)
- ・「健康社会学への誘い」榎本妙子著(世界思想社)
- ・「健康不安の社会学」上杉正幸著(世界思想社)

実務経験

科目名	人間関係論
授業形態	講義(演習・実習を含む)
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	神菌 紀幸

学習目標 人間関係の様々な側面を現代の心理学がどのように扱っているかについて概観し、その基本的な理論を理解すると共に、人間の社会的行動とそこに作用する心理的側面について、科学的な視点で論考できるようになる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	「人間関係」の捉え方 社会的相互影響過程(1)	イントロダクション、人間関係の「法則」	人間関係を理解するための視座を築く
2	社会的相互影響過程(2)	社会的影響方略	様々な社会的相互影響過程を理解する
3	社会的相互作用過程(1)	小集団における社会的相互作用過程(1)	日常的相互作用プロセスを科学的に分析できる
4	社会的相互作用過程(2)	”(2)	日常的相互作用プロセスを分析的に捉え、論考できる
5	社会的相互作用過程(3)	小集団における社会的相互作用過程の体験と振り返り	相互作用プロセスを体験し、科学的な視点で捉え直し、自らの対人行動についての省察を深める
6	情報伝達プロセス	対面的人間関係における情報伝達プロセス	情報伝達プロセスについて理解した上で、日常的に人間関係の在り方について考えることができる
7	対人関係の形成と発展・崩壊過程	対人魅力、対人認知、帰属理論	人間関係進展における心理的プロセスを理解する
8	対面的人間関係についての詳細	カウンセリング的関わりの基礎	カウンセリングプロセスを援用したより良い人間関係のあり方について考えることが出来る
9	まとめ、評価試験		

評価方法 出席状況、受講姿勢、提出物、筆記試験による

参考図書等

・特に指定しない。必要な資料は講義中適宜配布する

実務経験

科目名	外国語
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	山崎 美智子

学習目標 歯科英語に慣れ、英語による患者との簡単な会話ができるようになる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標	Text
1	導入・学習方法	Introduction to English	英語学習の仕方の確認・英語で自己紹介ができる	-
2	英語の基礎	動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
3	英語の基礎	Be動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
4	英語の基礎	助動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
5	予約	1. Making an appointment by telephone	電話での予約に対応できる	p3
6	薬の依頼	2. Requests for medicine	薬の処方について説明ができる	p9
7	救急の予約	3. Emergency appointments	救急患者への対応の仕方を学ぶ	p15
8	救急の予約	3. Emergency appointments	救急患者への対応の仕方を学ぶ	p16
9	健康保険	4. National Health Insurance	国民健康保険の説明ができる	p21
10	問診:症状の説明	5. Asking the patient to describe symptoms	歯の痛みについて尋ねることができる	p25
11	問診:症状の説明	5. Asking the patient to describe symptoms	痛みの表現を学ぶ	p25
12	問診:病歴	6. Asking the medical history	既往症について尋ねることができる	p33
13	ブラッシング	13. Tooth Brushing instruction for a child	子供に対してブラッシングの説明ができる	p95
14	ブラッシング	14. Tooth Brushing instruction for an adult	大人に対してブラッシングの説明ができる	p95
15	Review	Review	まとめ	

評価方法 単語力、文法力、表現力を確認するための筆記試験および授業時の態度

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	外国語
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	南 徹

- 学習目標
1. 言語表現技法を身につけること
  2. 英語で日常会話ができ、英語でのコミュニケーション能力が身に付くこと
  3. 歯科に関する基礎英語力を身につけること

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	言語としての英語Ⅰ	対話をいかにして学ぶか	英語による対話ができるようになる
2	言語としての英語Ⅱ	言葉による表現技法	英語による対話ができるようになる
3	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
4	英語質問力Up	疑問詞の使い方	疑問詞の使い方ができるようになる
5	自己他己紹介	英語で自分の紹介と知人の紹介	英語で自己・他者紹介ができるようになる
6	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
7	基礎生物英語	生物に関する英語力育成	生物に関する英語での表現ができるようになる
8	基礎人体英語	人体を英語で如何に表現するか	人体について英語での表現を理解する
9	病気のあれこれ基礎英語	英語で学ぶ基礎的な病気の症状や対処	病気の症状や対処法について英語での表現できる
10	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
11	歯科英語Ⅰ	病院を訪れた外国の患者さんへの対応	外国人患者へ英語で会話ができるようになる
12	歯科英語Ⅱ	歯に関する知識を英語で表現	歯科英語の基礎を理解する
13	歯科英語Ⅲ	歯に関する知識を英語で表現	歯科英語の基礎を理解する
14	英語学習総まとめ	学んだ講座の復習と質問	英語で自分の意見や考えを述べ、英作文の応用ができる
15	期末考査	試験	単位認定試験を実施し、到達度の確認を行う

評価方法 対話力、読解力、リスニング力、ライティング力などの歯科英語技能模擬試験等を行う

参考図書等

- ・電子英語辞典、英和及び和英辞典、CDプレイヤー
- ・各講師の各授業に応じて作成された教材
- ・最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	日本語表現法
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	原田 義則

学習目標 歯科衛生士の職務を遂行する上で、基礎となる日本語文章の表記力及び表現力を身につける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	オリエンテーション	講義の目標・内容・方法・評価について説明する。また、講師と受講生との信頼関係を構築する第1歩としての講師自身による自己紹介を行う	講義の目標・内容・方法・評価について理解する。講義への積極的な受講のための構えを作る
2	文章表記力について①	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確な表記をすることができる(常用漢字、異字同訓)
3	文章表記力について②	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確に表記することができる(同音異義語、書き間違いやすい漢字)
4	文章表記力について③	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確に表記することができる(現代仮名遣い等)
5	文章表現力について①	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する	適切な文章を作成するために、文化庁が示した指針等を基にして、正しい敬語の使い方について理解する
6	文章表現力について②	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する	相手に失礼が無く、効果的で論理的な文章を作成するための表現スキルについて理解する
7	文章表現力について③	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する	相手を想定した文章(実習のお礼、新聞投稿原稿等)を実際に書き、自己評価することができる
8	総括 終講試験	文章表現に係る理論及びスキルについて整理・確認する	文章表現に係る理論及びスキルについて理解し、文章表現に関する認識を形成する

評価方法 「授業態度」・「小テスト」・「終講試験」等で評価する。「授業態度」は、毎回の積極的な発言を重視する

参考図書等

- ・必要に応じて資料を配布する

実務経験

科目名	コミュニケーション論
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	原田 義則

学習目標 現代社会におけるコミュニケーション能力の重要性を理解し、歯科衛生士の職務場を想定した演習を通して各自のコミュニケーション能力の向上を図る

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	コミュニケーションの重要性	Society 5.0を迎える現代社会において、コミュニケーション能力の重要性を理解する	現代社会に求められているコミュニケーション能力とは何かについて理解する
2	コミュニケーションの内実1	コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る	コミュニケーション理論及びコミュニケーション・モデルについて理解する
3	コミュニケーションの内実2	コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る	コミュニケーション・ノイズの種類について理解し、その解消法について習得する
4	コミュニケーションの内実3	コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る	ノンバーバルコミュニケーションの要素と機能について理解する
5	コミュニケーションの実際1	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める	社会や職場といった「組織内」におけるコミュニケーションの在り方について実践的に理解する
6	コミュニケーションの実際2	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める	コミュニケーションを円滑にするリスニングの在り方について実践的に理解する
7	コミュニケーションの実際3	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める	来院患者を想定したコミュニケーションの在り方について実践的に理解する
8	総括 終講試験	コミュニケーションのあり方について学んだことを整理・確認する	コミュニケーションのあり方を整理・確認することができる

評価方法 「授業態度」・「小テスト」・「終講試験」等で評価する。特に、コミュニケーション能力は実践力を伴うので、毎回の積極的な発言を重視する

参考図書等

・必要に応じて資料を配布する

実務経験

科目名	職業教育
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	佐々木 英一・糸田 彩佳

学習目標 自分たちが学んでいる職業のための教育は、自分にとってまた社会にとってどんな意味があるのかを考えられる広い視野を持つ。そして今後の自分のキャリアについての見通しを持つ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	職業とは何か	さまざまな社会生活の側面の中で、職業の持つ意味を考える	自己の将来にとっての職業の意義を認識する
2	さまざまな職業1	会社で働く、工場で働く、販売の仕事などの働き方	事務職、ものづくり、販売職の概要を知る
3	さまざまな仕事2	サービス業、公務員、教育職などの働き方	広くサービス業に括られる仕事の概要を知る
4	健康・生活を支える仕事	医療・福祉(介護)での働き方	歯科衛生士を含め、広く医療・福祉職について知る
5	職業のこれまでとこれから	職業の変遷とこれからの変化	職業のトレンドを知って、自己のキャリア形成に資する
6	職業資格	さまざまな職業資格とその意義	職業資格について正しい知識を持つ
7	働く環境	労働をめぐるさまざまな問題(労働市場、就業形態、労働条件)	労働についての基本的知識を持つ
8	キャリア形成	これまでの授業で得た知識を自己のキャリア形成に生かす	自己のキャリア形成についての考えを持つ
9	歯科衛生士の職業①	歯科衛生士として働く意味、役割	臨床現場で働く歯科衛生士の役割・やりがいを知る
10	歯科衛生士の職業②	歯科衛生士として働く意味、役割	臨床現場で働く歯科衛生士の役割・やりがいを知る

評価方法 試験を行う

参考図書等

・必要に応じて資料を配布する

実務経験

科目名	手話
授業形態	講義(演習含む)
開講時期	2年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	大久保 正代

学習目標 聴覚障害の特徴を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである手話を使って自己紹介および歯磨き指導において大切なポイント手話を用いて説明ができるようになる

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	手話での挨拶①	日常よく使われる挨拶表現と名前を手話で表現	時間帯に合う挨拶の仕方と名前を手話で表現できる
2	手話での挨拶②	自己紹介の表現	手話をつかって自己紹介ができる
3	手話での挨拶③	自己紹介の実践	手話をつかった自己紹介を実践できる
4	聴覚障害と手話	耳のしくみ、聴覚障害、手話	耳のしくみを知り、聴覚障害者を理解し、対応時の注意点や手話の特徴について理解する
5	聴覚障害者への配慮	聴覚障害者への配慮の仕方、注意点	授業や会話をする際において配慮すべき点や注意点について理解する
6	指文字と手話①	指文字の学習、数字の表現、職業の表現	指文字での表しかた、数字の表しかた、歯科衛生士の職業の表しかたを知り表現できる
7	指文字と手話②	場所の表現、時間の表現	本校の場所の表しかた、時間の表しかたを表現できる
8	手話での歯科指導①	手話を用いての歯磨き指導	手話をつかって歯磨き指導における大切なポイントを表現できる
9	手話での歯科指導②	手話を用いての歯磨き指導	手話をつかって歯磨き指導における大切なポイントを表現できる
10	試験・講評	学習評価	これまで学習した内容からの出題を元到手話で表現できる

評価方法 授業への参加姿勢、手話の習得度(実技試験)にて総合的に評価し、100点満点の60点以上を合格とする

#### 参考図書等

・「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう」市民向け手話学習テキスト編集委員会編集(一般財団法人全日本ろうあ連盟出版)

#### 実務経験